

# 矢板がまんだ偉人③ 林竹二

●生い立ち  
 林は、明治三十九年十二月に下太田で生まれました。父親の矢板大安が泉小学校長から栃木県視学に栄転し、さらに山形県視学に転任、その後、西村山郡長、最上郡長などを歴任したため、転校を重ねて育ちました。

●学長に  
 昭和二十四年に東北大学教育学部教授に、そして昭和三十七年には同大学より文学博士の称号を受け、昭和四十年には、同大学の教育学部長に選任されました。その四年後に、仙台市に国立宮城教育大学が出来ると、その



林竹二ご夫妻

### ●学長に

●学長に補任されます。大学紛争の中で昭和四十年代も中頃に全国的に吹き荒れて来ます。宮城教育大学でも、学生たちによって部長室や人文棟が占拠されるといふ事件が発生しました。林は、学生たちと徹底した集会と討論を行いました。一時は学長室をバリケード内に移動すること、提唱。こうした態度が学生たちの心を動かし、授業が再開されたのでした。このことが、林の名を全国的に知らしめることとなりました。

### ●教育一家

祖父は、矢板小学校の初代校長を務めた矢板竹松、父親と妻は文面の通りです。長男の謙作は、北海道大学の教授で、我が国の縄文考古学の第一人者です。

＊林竹二について詳細を知りたい方は、ウェブサイトに矢板市立図書館蔵の著作集をご覧ください。(T・S)

# 書道の新星現る！

## 矢板東高校 渡邊 啓太さん

●いつから書道を始めましたか  
 祖母が開いていた書道教室に、三歳から通い始めました。最初は、文字ではなく、「目の絵」や「魚の絵」を書いていました。曲線や直線が上手に書けるようになるまで繰り返し書きました。いつか文字を書くようになったかは覚えていませんが、小学一年の時には夏の下野教育書道展に出品していました。

### ●書道の面白さはなんですか

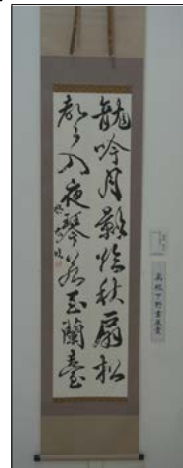
同じ文字でも、書く人によって表現が千変万化することです。歴代の名家の劇蹟には、さまざまな書のエッセンスが凝縮されており、奥深い魅力があります。その中でも特に、僕は、中国の王羲之の書が好きです。彼の書には品格があり、僕の憧れの存在です。

### ●今後の目標は

高校を卒業したら書を学べる大学に進学し、もっと深く、本格的に書に親しんでいきたいと思っています。(Y・S)

### ●出展のために費やした期間は

今回は、作品を仕上げるまでに二週間、縦の長さが約百八十cmある条幅の半切に漢字二行を、学校と家で合計百枚ほど書きました。筆づかいが難しく、とても苦労しました。



(編集後記)「やいたのいいところや頑張っている人を紹介したい!」という想いで、かわら版の編集委員になり、あっという間に3年半が経ちました。皆さんにこの想いは届いていますか?今号も猛暑の中、取材してきましたよ~(T・O)